

（千百年の伝統を誇る 川上村の烏川神社、運川寺の「弓祝式」）

伝統を誇る郷土の行事「^{ゆみいわいしき}弓祝式」が、1月9日に川上村東川の烏川神社と運川寺で行われた。県内でもまだ神仏習合の風習が残る珍しい行事である。

1,100年もの昔、この辺りの人々は純朴で穏やかな暮らしをしていた。ところが、悪魔、怪物がはびこり、良民を苦しめるなど禍いがせまってきた。そのとき、^{ひがしや そう}東弥惣という弓の名人が名乗り出て、904年正月9日の朝明け、大雪の中に、弓矢を持って立ち向かい、首尾よく悪魔、怪物を倒すことができた。その時、弥惣は「悪魔は山の主で、今後もその執念が村にたたるかもしれぬから、悪魔を退治した正月9日に、毎年桑弓、^{くわゆみ よもぎや}蓬矢で東西南北天地の間を射る」と言ったと伝わっている。その後、この日に弥惣の追善と、悪魔を倒した祝いを一緒に行うようになり、千百年の間、連続と続いている。

毎年新たに東川地区から選ばれる三人の弓の引き手が、一人三本ずつそれぞれ三回、運川寺境内から40m先の烏川神社境内の的に、矢を放った。的を射抜くかどうかは、その年の吉兆を占う意味もこめられている。

今年は、的を射抜く回数が例年より多かった。

弓引きが終わると、的場に移動する。弓射ちに使った的を裏返すと、真ん中に鬼という字が大きく書かれている。白頭巾の宮守が、弥惣の言い伝え通りに桑弓に蓬矢で、東西南北、天と地へ矢を放ち、最後に鬼的に矢を放った。次に、別の宮守が鬼的に前に進み、宮守刀を振って鬼的に切りつけ、鬼の字に止めを刺した。最後に、運川寺の僧侶が鬼の供養の読経をして、引導を渡した。

（上田）



弓祝式

これからの主な催し

〔主な行事〕

● 2月14日（火）14:00

長谷寺 だだおし

ほら貝や太鼓が打たれる中をだだおしの鬼が大松明をかついで走り回る。この火を持ち帰ると無病息災であるという。

近鉄長谷寺駅から徒歩20分

● 2月15日（水）9:00～16:00

興福寺 涅槃会

仏教の祖釈尊の忌日に、涅槃画像を掲げ釈尊の遺徳をしのび、鎌倉時代の古式による法要を行う。

JR奈良駅から市内循環バス県庁前下車すぐ。

近鉄奈良駅から徒歩5分

● 3月15日（水）10:00～

春日大社 御田植祭（御田植神事）

平安末期から伝えられる行事。当日八乙女達は、若宮社の前を出発して、本社の林檎の庭、榎本神社下、若宮社前の3か所で、田男の耕作、神楽歌にあわせて八乙女の田植えの舞をおこなう。

JR・近鉄奈良駅から春日大社本殿行バス8分 終点下車すぐ。又は市内循環バス8分 春日大社表参道下車 徒歩10分